

## 言葉の言えない脳障害児が、漢字を覚えたら

東京都八王子市めじろ台にある私の研究所では、就学前の幼児に対して、主として漢字による教育指導を行い、その知能を高める研究をしています。正常児を主体にしていますが、脳障害児や精薄児も何人が指導して来ました。

指導は一週間に二日、一日に二時間行います。母親にも参加してもらい、指導法を体得してもらって、できる限り家でも母親に指導してもらうようにしています。

こういう子供たちの中に、脳障害による精薄児で、言葉の言えない幼児が二人いました。発声器官には異常がなく、言葉を覚える能力が劣っているため、言葉が言えない子供たちでした。知能が低いばかりでなく、体力も劣っており、運動能力も大層低いものですから、そういう面の指導も行わなければなりません。従って、漢字学習は、二時間のうち、たかだか十分から二十分くらいのものです。

漢字学習と言っても、子供の好む内容の漢字カード(例えば、<sup>いちご</sup> 苺、栗、積木、絵本等)を見せて、その実物を対照させながら、読んで聞かせる

だけのことです。例えば、苺というカードを、実物の苺と共に子供に見せて、「これは苺ね。こちらは“いちご”という字よ」というように、これを二、三回くり返して言うのです。

この学習を続けていますと、まず、苺と“苺”という字との結び付きが出来、カードを見て苺を指さすようになります。「よくできたね。この字は“いちご”だったね」と、“いちご”に特に力を入れて大きな声ではっきりと言うようにして、カードの字と物とが正しく合ったことを讃めてやりません。

これを続けていますと、今度は“いちご”という言葉も記憶でき、それと“苺”という字とが結びつき、カードを見て苺を指さしながら“いちご”と言えるようになります。つまり、言葉が言えるようになるのです。